

埼玉岳連

埼玉岳連報 第8号

発行所 埼玉県山岳連盟
上尾市上1481-51
電話 (0487) 75-1723

発行者 清水 武 甲
編集者 大久保 孟

県岳連運営について

埼玉県山岳連盟

理事長 田 中文 男

埼玉岳連に加盟することによって、会員の方々が、少しでも利益が得られるよう、運営に努力して参りました。

各部長、理事の方々の協力により、遭対の問題、指導技術の向上、海外遠征許可のスピード化、国体の得点種目移行による強化対策、自然保護のあり方、その他、日山協との協力、県体協の行事に参加などが、一応の成果をあげることができたと思います。しかし、決して皆様方全ての満足を得られているとは思っておりません。むしろ、もっと、もっと仕事をしようというご希望の方が多いかと思えます。それに応えるのが、私達運営にたずさわる者の義務でもあると思います。

55年、56年と各地区と懇談会も開催しました。各地区共新人会員の募集方法、運営問題等、共通の悩みをよく聞きます。この問題の解決についても県岳連は協力、助言の必要もあると思います。さらに

谷川岳の通年規則化等の動きについて、会員の皆さんの不利益にならないよう、行動の必要性を感じます。

遭難対策については、ようやくリーダー会議が定例化して参りましたが、隣接する都市同志で救助問題の協力化や保険の加入増加、二重遭難に対する処置など問題は数多くあります。全て皆さんの協力がなくては解決のつかない問題です。

ご承知のように、56年12月私が所属する浦和山岳会が甲斐駒・黄蓮谷で雪崩に合い、三名の死亡者を出しました。しかし、会、市岳連の力で、三日で解決致しました。皆さまでご心配をお掛けしました。が、反面、市岳連のふだんからのチームワークの良さの必要性を痛感しました。

今後、地区の強化、救助技術の向上に努力したいと思えます。不始末をおわび申し上げますと共に、今後のご協力を重ねてお願い致します。

昭和57年度

総会終る！

去る4月18日(日)上尾市福祉会館で総会が開催され、昭和56年度事業報告、同決算報告、57年度事業計画、同予算案、役員改選等を審議し、原案通り承認されました。

新役員は次の通り。

会 長	清水 武 甲
副 会 長	浅見 豊
理 事 長	野井 篤
副 理 事 長	加藤長市郎
事務局長	田中 文男
指導部長	岩月 弘光
競技部長	大野 幾雄
遭対部長	尾熊 峰雄
海外部長	武井 正男
自然保護	井古田忠男
対策部長	田山 勝
国体部長	新井 宏司
広報部長	平沼 伸一
	大久保 孟



◆昭和56年度事業報告

4月7日 部長会議を開催
本年度の理事会・総会への提出議題及び開催期日を決める。
5月12日 理事会を開催し、総会への提出議題及び総会の開催日を決定した。
5月16日 総会を開催し、昭和56年度事業報告、56年度事業計画、55年度決算報告、56年度予算案を議題として提出し承認を得た。
5月24日 国体予選会を三峰から白岩山間にて開催した。出場選手は成年男子7名。
5月27日 部長会議を開催し、国体選手(成年男子)を内定。なお、成年女子、少年男女については、関東大会までに選衡し、ぜひ選手を送り込むことを申し合せた。
7月14日 理事会を開催。国体選手及び関東大会出場選手を決定した。
7月25日 県北部懇談会を熊谷市民ホールにて開催し、県岳連と地区岳連との話し合いの場をもうけた。
7月17日、19日 関東大会が東京にて開催され、本県から成年女子と少年男子の選手が出場。その結果は次のとおりである。
成年女子 五十嵐恵子(浦

和市)、遠藤徳子(春日部市)、菊地幸子(川口市) 成績 縦走四位、登攀六位、踏査四位、総合六位 少年男子 新井英之、丹波寛、発知俊明、以上狭山ヶ丘高校山岳部 成績 縦走五位、踏査三位 7月31日 理事会を開催。 ミニ国体について。 9月7日 部長会議を開催。自然保護部を中心として清掃登山を伊豆ヶ岳を中心に開催した。 9月9日 理事会 県体期日の変更について 9月27日 清掃登山を伊豆ヶ岳を中心に開催した。 10月13日 18日 国体予選会開催の結果 監督・岡本春夫(東松山市)、選手・高橋正光(坂戸市)、中嶋 晴夫(東松山市)、大沢靖一(吉見町)以上の様に監督、選手を決定し、滋賀国体に派遣した。 10月17日 18日 県体開催(両神山)成績は次のとおり。 成年男子 一位 小鹿野山岳会 二位 浦和市役所山岳部 少年男子 一位 狭山ヶ丘高校B 二位 狭山ヶ丘高校A	10月18日 岩登り競技会 一位・鹿沼文雄(深谷山岳会)、二位・茂木明夫(本庄山の会)、三位・湯本昇(熊谷岳友会)なお、鹿沼、茂木両選手は全日本岩登り競技会に出場。 12月12日 冬山リーダー会議を開催。入山についての情報交換を行った。三十二山岳会出席。午後より講演会、講師・松永敏郎氏「冬山登山技術について」 2月5日 7日 積雪期登山講習会を富士山にて開催。 2月18日 部長会議を開きアムネマチン登山隊の派遣について打合せ。 2月20日 21日 関東地区岳連連絡協議会(大子町)に出席。 3月1日 理事会を開催しアムネマチン登山隊の派遣を協議し、派遣することに決定。隊員募集について各会に公募し、隊を編成することとした。	昭和56年度県体育功労賞の受賞 本年度は、田村雄一氏(日産ディーゼル所属、上尾市在住)が受賞。同氏は永年理事及び競技部長として活躍し、三重国体においては監督として出場した。 優秀選手賞は狭山ヶ丘高校山岳部が受賞、同部は本年度のミニ国体(東京都)に出場し、踏査競技に入賞したことによる。	昭和55年の栃木国体から正式種目として採用されたのをはじめとし、多くの事業を各役員の方々には、勢力的になさって頂きましたことを、厚くお礼申し上げます。今後共岳連運営には益々のご援助を頂くことと思ひます。任期満了に当たり皆様方のご健勝をお祈りいたします。 事務局長・大野幾雄	講習会のおと指導委員会を開き地区指導員として次の二名を認定した。 寺島和男(ピオレ山岳会) 鹿沼文雄(深谷山岳会) 積雪期登山講習会ならびに指導者研修会(富士山) 昭和57年2月4日 7日 富士山五合目付近にて、日山協の積雪期登山指導教程による実技と検定会を行なった。今年は雪が少なく滝沢林道を車で四合目まで登れたので歩かないですんだ。 5日は風が強くなりときどき練習の手を止めさせられたが、参加者が例年より少なかったせいか、皆よくまとまり、特にミイティング等もありあがり楽しくすごす。	検定受検者は地区指導員5名で、6日に筆記試験を行い、7日に実技「歩行技術、カッティング、アイゼン技術、滑落停止、耐風姿勢」と指導法においては、全員わかりやすく説明してくれたが、実技においては何人か少しあまいところが見られた。結果は4月の指導委員会にて決定する。 (参加者18名)	雪洞講習会 谷川岳西黒尾根 昭和57年3月6日 7日 西黒尾根の鉄塔から1時間ほど登った所で雪洞講習会を行なった。 小雪が降る中を土合11時出発。富士山での講習会に参加した人がかなり出席してたので話しながら行く。 今年はせっかく稜線の仲間が6名参加してくれたが、今日のうちに下山すると言うので少しさびしかった。 雪洞は全員なれているのか、がちりしたのが作られたが、例年より雪がしまっていたのか、少し時間がかかったようだ。それでも余裕のある班など山スキーを楽しんでいた。 翌日7時に頂上へ出発。雪はまだ降り続き、ときどき強風が吹き荒れた。頂上より2時間ぐらいい下の地点にて天気も回復しないので下山する。途中深谷山岳会と逢い一緒に指導センターまできて解散する。 (参加者31名) 指導副部長 尾熊峰雄
---	--	---	---	--	--	---



* 競 技 部

5月24日(日) 国体選手選考会が三峰山・白岩山にて行なわれ、次の3名が第36回びわこ国体選手として決まる。

大沢靖一(路草山岳会)
中嶋晴夫(自動車機器山岳会)
高橋正光(路草山岳会)

7月17日(金)・19日(日)
第36回関東地区予選会が奥多摩山系にて行われ、次の選手が参加いたしました。

成年女子

監督 平沼伸一(小川山の会)
選手 遠藤徳子(東部登高会)

菊地幸子(あゆむ山の会)

五十嵐恵子(浦和山岳会)

少年男子

監督 桑原哲也(狭山ヶ丘高校)

選手 新井英之()

発知俊明()

丹羽 寛()

10月13日・18日の間、第36回国民体育大会が滋賀県比良山系を中心に行なわれ、本県からは次の4名が出場致しました。監督・選手のみなさんの御協力ありがとうございました。

監督・岡本春夫、選手・大沢靖一・中嶋晴夫・高橋正光

10月17日(土)・18日(日)
昭和56年度県民体育大会(山岳)が秩父両神山にて行なわれる。

競技コース 日向大谷・両神山頂・清滝小屋、山頂にて読図問題の設問、ゴール後天気図作成、ザック重量チーム45kg。

期間が2日間のため参加者が少なく残念に思いました。みなさんの県体です、57年度は多数の参加者が有りますように。

国体の競技登山に思う

早いもので、山岳競技が天皇杯の得点種目に移行してすでに2年が過ぎてしまいました。各県とも得点種目移行に對して賛否両論有る中で、登山本来の姿は別に、参加するからには勝ちたい、そして良い成績を修めたいという方向に向いて来たように見受けられます。今年の関東地区予選会は栃木県で、国体は島根県西中国山系で行なわれます。また来年は関東地区予選会は我が埼玉県で、そして国体は群馬県で予定されており、本県もぜひ来年はフルエントリーをして良い成績を修められるよう各山岳会の絶

大なる御協力を御願いたします。

競技部長・平沼伸一

* 遭 対 部

上尾の体育館で12月13日に冬山リーダー会議を開催し県内23団体より参加者がありました。

リーダー会議の目的は、同一入山地域における冬山情報の交換、同一入山地域内における遭難対策について。

以上二つの目的をもって例年通りリーダー会議を開催している。細部については、北アルプス、南アルプス、上越方面、八ヶ岳の四つのグループに分かれ地域別に会の紹介、入下山場所、ルート、人員、トランシーバーのコールサイン、交信時間等の打合せ等を行い、万一事故発生があった場合、現地内処理が出来るように事前打合せを行い、約二時間で終了した。

午後からは、松永敏郎氏による冬山登山技術についての講演会が開かれた。

遭対部長・井古田忠男

* 海 外 部

55年6月 前年に中国登山協会へ申請した青海省・アムネマチンの断り状を入手した海外部は、55年11月に再度、登山申請を送付した。返信がなかったため、56年12月に部長が訪中の際、中国登山協会へたざしたところ、ただちにOKとなり正式に許可された。

現在、海外部で計画製作を再度行っているが、同時に県岳連理事会へも報告、「アムネマチン登山実行委員会」の発足準備を進めている。県岳連創立30周年記念登山で、近く県岳連加盟団体すべてへ、参加申込みをよびかける。岳連の若者たちの手で、是非とも登頂を果たさく、ふるって参加していただきたい。

海外部では、県内登山者の海外動向などにつき、データIをまとめる仕事も計画していたが、各岳連の協力なしには達成出来ない。今後の協力をお願いしたい。

なお、海外部の委員は現在十一連盟が登録し会議等を進めているが、委員を出していない連盟は早急に事務局へ委員を登録し、今後の協力をお願いする。

海外部長・田山 勝

* 自然保護対策部

自然保護対策部では県内に24名の役員を配置して、登山界におけるゴミの処理、問題等に取り組み、各山岳団体に自然保護に一層の協力をして頂くようお願いしております。現在山岳地帯のゴミの散乱状態は数年前より幾分かきれいになって来ているようにも思われますが、シーズン中には相当のゴミがまだまだ目につくのが現状のようです。

自然保護対策部主催による昭和56年度の一斉清掃登山を9月27日、奥武蔵自然公園を会場に開催致しました。当日は快晴に恵まれて午前八時の集合時間には、高校生、大学生一般と約70名近くの人が集まり、フジテレビ、埼玉テレビの二局も報道にかけつけてくれました。

開会に当り田中理事長より県岳連の自然保護に対する考え方や、今後の取組等について挨拶があり、各自用意した人、主催側が用意した小道具を持って、特に汚れのひどい旧正丸峠、伊豆ヶ岳付近のA、B、コースに別れて清掃し持ち出されたゴミも最終的には21車、山盛りの成果がありました。

尚、昭和57年度も計画中有りますので、今後も皆様多数の参加をお願い致します。

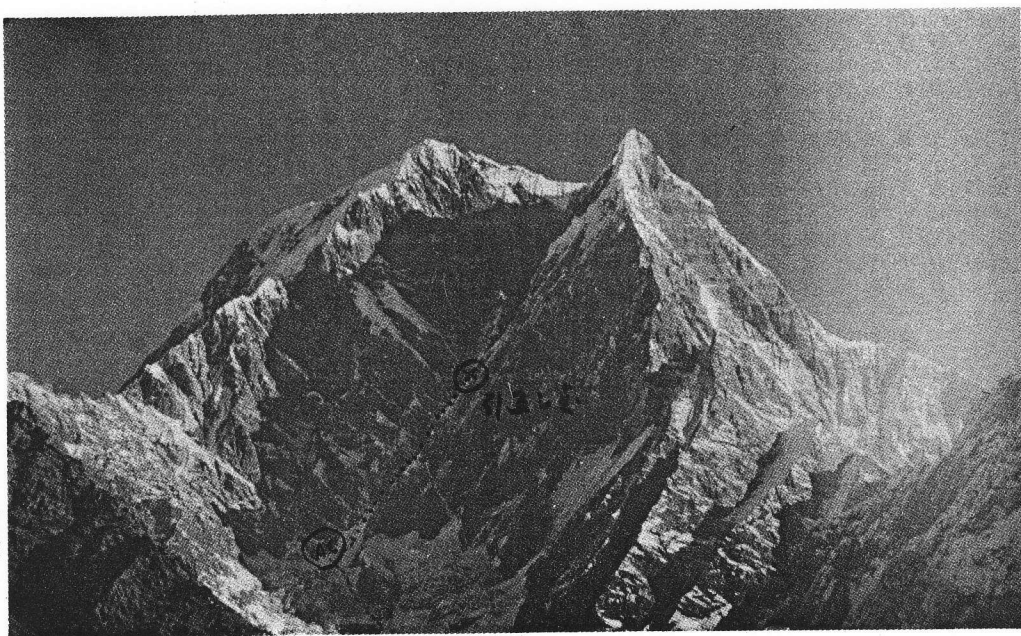
◆ ◆ ◆ 自然保護委員総会

日本山岳協会の昭和56年度自然保護委員総会は、去る昭和56年11月1日、2日の両日にわたり、宮城県岳連が主管となり、宮城県鳴子町鬼首高原において、中央、全国、18都道府県からの自然保護委員等55名が参加して開催されました。

日山協倉持自然保護委員長のあいさつがあり、続いて宮城岳連会長、伊達篤郎氏より、美しい山の自然を保護し、次代に引継ぐをモットーに山岳地帯自然保護に日頃努力されている委員の皆様は、全国よりお集り頂きましてこの景勝の地で、自然保護について御討議下さいますことは、私共、宮城岳連といたしましても大変喜んでおりますと挨拶があり、二日間、各県代表の発表があり、無事終了致しました。

自然保護対策部長

新井宏司



ニルギリ・サウス南壁

ニルギリ・サウス 南壁登山報告

ニルギリチーム

代表 岩崎元郎

一九八一年プレモンズーンにニルギリ・サウス南壁登山を試みた私たちの行動を簡単ではあるが以下に報告する。ニルギリ・サウスはネパールヒマラヤのアンナプルナ山群の西北隅にある。モリス・エルゾグの著書「処女峰アンナプルナ」でも有名な主峰アンナプルナはミスティコーラをはさんで東に八〇九一mの高さを誇示している。私は四月四日にBC入りしてから四月二十五日にBCを撤収するまで、あかずアンナプルナを眺めていた。BCからは見えないが裏山に登れば、カリガンダキをはさんで西北にダウラギリがヒマラヤンジャイアンツという名にふさわしく、どっしりと根を張って聳えている。そんな位置にニルギリ・サウスはあった。ちなみにダウラギリとは「白い山」、ニルギリとは「蒼い山」という意味である。

参加者は

岩崎元郎(36才) 隊長

武川俊二(26才) 登攀リーダー
清水達也(29才) 装備
堀内芳宏(28才) 食糧
安部正敏(24才) 渉外
山崎俊一(35才) 医療
の六名であった。

2月25日 堀内、安部の二名先発隊として成田発。

3月8日 清水、武川の二名中発隊として成田発。

15日 岩崎、山崎の二名後発隊として成田発。

16日 後発隊の二名が夕方カトマンズのトリブバン空港に到着、全員揃う。

17日 登山局へ挨拶。

18日 登山許可をもらう。

19日 先発メンバーの働きで準備はすべて整っており、登山許可をもらった翌19日カトマンズよりポカラへむかう。

20日 朝七時頃より集ってくるポーターに荷物を渡す。本日はヤンザまで。両替等、やり残したこと多い隊長はポカラで用足し。夕方、ポカ

ラで仕事をしている友人にランドクルーザーでヤンザまで送ってもらおう。

21日 雨の中をノーダラを経てカレまで。パッティに泊る。二ルピー四〇円。

22日 朝、パッティの小さな窓から白く輝やく峰をみて、ようやくヒマラヤにきたことを実感する。チャンドラコット、ビレタンティを経てヒレまで。

23日 ウレリへの急登、続いて山賊も出沒するとかいうジャクナゲのジャングルを抜けてゴラパニへ。峠のパッティに泊る。三〇〇〇mに近く寒い。小雪が舞う。

24日 きょうはタトパニまでのダウンヒル。山村シーカが美しいたずまいを見せている。スルジェ館に泊る。

25日 ガーサまで、パッティに泊る。

26日 エルゾークが美しいと書いたレテを経てチョヤまで、気持ちいい広い河原にテントを張る。

27日 ジャンガルキャンプまで。雪が出てきてたちまちポーターはごね始める。38名上ってきたポーターのうち20名が下ってしまう。雪

28日 デポ1へ荷上げ。雪

多く翌日8名のポーターが下ることになる。

29日 停泊

30日 デポ2への荷上げ。

31日 停泊。ポーター4人下る。

4月1日 デポ2へ荷上げ。

2日 清水、安部BC設営。

3日 デポ2へ荷上げ。

4日 全員BC入り。

5日 デポ2よりBCへの荷上げ。(この作業は9日になつて完了する)

6日 ポーター1名下山、メルランナー出る。武川、安部AC予定地偵察。

7日 武川、安部BCへ戻る。

8日 6名でACまで荷上げ。私は初めて氷河を踏む。感激!

9日 全員停泊。

10日 武川、清水、堀内、安部AC入り。

11日 アタックメンバーは五七〇〇mまで試登。ACに戻る途中、雪崩のため清水が一五〇m飛ばされる。

12日 アタックメンバー、BCに戻る。天気は午前中良くて午後から雪か、朝から天気が悪いかのいずれか。当初の南壁のラインは全く見込みがなく、南壁の基部を右に斜上して南峰と南東峰の間にせり上るクローアルに登攀リーダーが固執する。私は南西稜に成算ありとみるが、ここは登攀リーダーに任せるしかあるまい。

13日 停泊。

14日 武川、清水、安部がACに上る。

15日 気温高くACメンバー停泊。

16日 前記3名BCに戻る。

17日 天気悪く停泊。

18日 停泊。

19日 昨日の雪で全山まっ白。停泊。

20日 停泊。登攀リーダーがクローアルとアルパインスタイルに固執してるので動きようもない。

21日 武川、清水、安部、山崎がACに登る。ACは雪崩のため二m半もの雪の下。二時間費やして掘り出す。全員めげてしまった。

22日 天気悪く、アタックメンバーはBCに戻る。ヒマラヤ初見参の我々に登攀リーダーのイメージするクローアルのアルパインスタイルは可能性ゼロ。他のメンバーの意見が一致している可能性(南西稜)への変更も、登攀リーダーをリコールしてまで今回の山行に固執しなくてもいいという意見が大勢を占めて登山中止を決定する。

23日 24日 下山準備。

25日 BC撤収してレテに下る。

26日 レテよりタトパニへ。

27日 タトパニよりゴラパニ。

28日 ゴラパニよりチャンドラコットへ。

29日 ポカラへ帰る。

30日 5月1日 ポカラで遊ぶ。

2日 カトマンズへ戻る。

3日 6日 帰国準備。

7日 岩崎一人トリブーバ空港より帰国の途につく。

8日 バンコク停泊。

9日 岩崎成田着。他のメンバーは10日遅れ、一ヶ月遅れで最後の安部が7月初旬に帰国し、今山行にピリオッドを打った。

登頂できなかったことは明快に失敗であるが、よきネパールの休日であったことを報告しておきたい。



原 稿 募 集 !

記録・紀行・写真・カット なんでも結構です。
広報部宛お寄せ下さい。

送付先 〒363 桶川市上日出谷940-15
埼玉岳連広報部 大久保 孟 宛

